

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	筑波大学附属視覚特別支援学校
-----	----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	それぞれの幼児・児童・生徒の障害・発達・生活等の実態と課題を踏まえ、個別指導や習熟度に応じた指導を行った。また、児童生徒の興味や関心に応じて課題を設定し、成果を上げた。
3-1-1	学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備の状況	生徒指導に関わる関係者（学校・寄宿舎・家庭・スクールカウンセラー）の連携を密にし、学校全体での取り組みを意識しながら生徒指導にあたった。
6-1-1	特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	地域の幼稚園や小学校との交流を通して、視覚障害教育に関する情報提供や支援方法を学ぶ機会を提供した。また、附属学校間では、幼稚部が久里浜特別支援学校と、小学部は附属小学校や附属坂戸高校、中学部は附属中学と附属桐が丘特別支援学校、高等部は附属高校と学芸大学附属高校と交流した。
9-3-2	教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況	児童生徒および保護者の意見や要望の把握と適切な対応のための教職員の研修を実施した。また、スクールカウンセラーや養護教諭と連携することで、きめ細かい対応をするよう努めた。
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、体育館が改修され屋根の遮熱工事、エアコンが整備され、快適な練習環境を提供出来るようになった。
14-1-2	大学との連携・協力	大学教員および学生の研究への協力、教育実習や介護等体験で連携した。鍼灸手技療法科、理学療法科、治療室においては、本学医学群、理療科教員養成施設等と連携した。
14-1-3	先導的教育研究	全国の視覚特別支援学校における今日的課題に応えられる教育実践を図りながら、「視覚障害教育ブックレット」発行や研究協議会等を通じて教育実践・研究についての情報発信を行った。
14-1-4	教員養成・教師教育	大学、教員養成施設等との連携を密にしながら、教員養成に取り組んだ。視覚障害研究協議会、教員免許状更新講習、点字・歩行研修会、寄宿舎指導者実戦競技会等を実施し、質の高い専門性の提供を行った。
14-1-5	国際交流・国際貢献	トビタテJAPANに応募し、高校生2名がチェコ共和国に留学して、現地での特別支援教育について学ぶ機会となった。教育長裁量経費で高校生2名がタイで活躍する卒業生を訪問し、地元の視覚特別支援学校の生徒や視覚障害がある大学生と交流し、発展途上国での国際貢献について考える機会となった。卒業後、ミャンマーで理療士として働く生徒のフォローをするため、教員が現地で活動する日本のNPOと情報交換を行うなど、今後の留学生育成に活かせるよう研修を行った。
14-1-6	社会貢献	鍼灸手技療法科併設の治療室、育児学級ミニ講座、一般校で学ぶ視覚障がい中学生対象のサマースクール、高齢者対象の健康教室、ふれあいマッサージなどの機会を通して、地域等に貢献した。